

Q&Aで学ぶ!

# 投資指標「PBR」の基礎知識

## 東証の改善要請で関心が高まるいま理解しておこう

藤原久敏 藤原FP事務所／藤原アセットプランニング合同会社代表

東証がPBR1倍割れ企業に対し、株価水準引上げのための具体策の開示を要請した。預かり資産担当者は今回の東証の要請を機に、PBRをはじめとする投資指標の基本を学ぶことが大切だろう。

そこで本特別企画では、PBRに関する基礎知識と今回の要請について解説する。

### Q1 PBR（株価純資産倍率）とは何ですか？



**P** BRとは、企業の株価を比較・評価する際に用いる株価指標の1つで、現在の株価が1株当たり純資産の何倍となっているかを示す指標である。

また、1株当たり純資産とは、会社の純資産（資産－負債）を発行済株式総数で割ったもので、会社の純資産に裏付けされた価格である。

例えば、現在の株価が300円、その会社の1株当たり純資産が100円の場合、PBRは3倍（300円÷100円）となる。

**株価の割安・割高を判断**  
PBRを活用することで、会社の資産価値の視点から現在の株価が割安か割高かを判

断できる。

仮にPBRが3倍だとすると、それは現在の株価が、その会社の純資産の3倍の価格であることを示す。

この場合、その会社は純資産の価値以上に評価されていることになる。つまり、資産価値の視点から見れば、現在の株価は割高だと判断することができるのである。

一般的にPBRは1倍が目安とされ、PBRが高いほど現在の株価は割高であり、PBRが低いほど割安であると判断することができる。

#### POINT

現在の株価が1株当たり純資産の何倍かを示す指標。割安・割高で判断

### Q2 PBR1倍割れとはどういうことですか？



**P** BR1倍割れとは、現在の株価がその会社の1株当たり純資産の額を下回っていることを示す。

例えば、現在の株価が80円、その会社の1株当たり純資産が100円の場合、PBRは0.8倍（80円÷100円）と、PBR1倍割れの状態となる。

#### 数字だけ見れば超割安

1株当たり純資産とは、その会社の純資産に裏付けされた価格であり、その会社の解散価値を表すものである。つまり、会社を解散（清算）して、その残余財産を株主に分配する際、株主が1株当たり受け取ることができる金額というわけだ。

現在の株価が1株当たり純資産（解散価値）を下回っている「PBR1倍割れ」の状態とは、数字だけを見れば、超割安な状態と言えるだろう。例えるなら、100円が入った財布が80円で売られている状態と言ってもよい。

そのため一般には、株価下落時、PBR1倍近辺がその株価の下限の目安とされている。ただ、実際には様々な要因からPBR1倍を大きく下回った状態の銘柄も少なくないため、PBRだけを見て判断するのは危険である。

#### POINT

PBR1倍割れは現在の株価が1株当たり純資産を下回る超割安な状態

### Q3 なぜ東証はPBR1倍割れ企業を問題視しているの？



**P** BR1倍割れの状態とは、数字だけを見れば超割安な状態であるが、これは同時に、投資対象としての魅力が非常に乏しい状態であることも意味する。

なぜなら、現在の株価がその企業の解散価値（1株当たり純資産）にも満たないということは、企業としての付加価値がまったくない状態である。いわば、投資家からまったく期待されていない状態なのだ。

#### 上場企業だからこそ厳しく

東証は、そのような状態であるPBR1倍割れ企業について、次のような状態だと判断した。「上場会社であるにもかかわらず、資本コストや株価・時価総額に対しての意識が低く、コーポレート・ガバナンス（企業統治、すなわち企業経営を管理監督する仕組みのこと）の機能が低く、また、投資家と向き合った経営ができていない状態」

この判断から、東証はPBR1倍割れ企業を問題視しているというわけだ。

そこで東証は、該当する企業に対して様々な要請（Q4参照）をすることで、改善に向けた取組みを促進しているのである。

#### POINT

超割安だけでなく、投資対象としての魅力が非常に乏しい状態